

売薬の意匠あれこれ

北多摩薬剤師会会長、立川市薬剤師会会長代行 平井 有(ひらいいたもつ)

その2 ■ 天狗と鬼

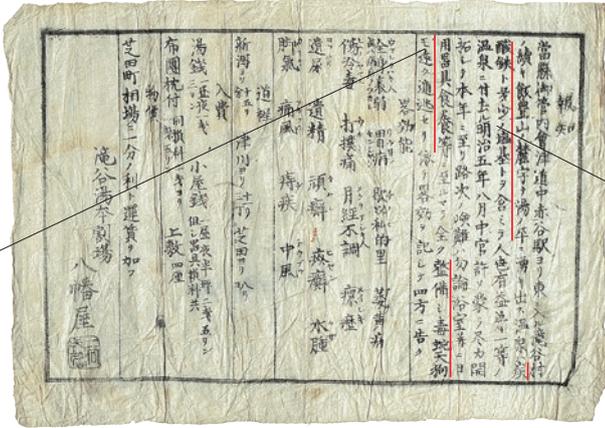
前回より始まった『売薬の意匠あれこれ』シリーズ。今回は純日本風(和風)の「天狗と鬼」の意匠です。

天狗は『今昔物語』や『平家物語』などにも登場し、民間信仰として伝えられてきました。一般的には山伏(修験者)の服装で、赤ら顔、鼻が高く、翼があり空中を飛ぶと信じられてきました。現代人には荒唐無稽の存在と笑われそうですが、明治初期の温泉のチラシには、温泉の科学的な効能と天狗についての記述があります。

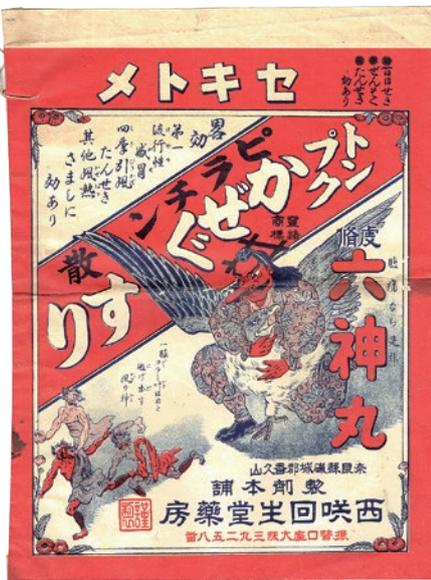
一方、鬼は薬の世界では悪さをする悪者として描かれており、達磨大師や鍾馗様、神話の神様などに征伐されている様子が多くみられます。

今回のコレクションは科学と伝承が違和感無く人々の中に生きていた明治から戦前にかけての時代の雰囲気を感じて置いて御覧いただければと思います。

炭酸鉄ト少少ノ塩基トヲ含ミテ



整備シ毒蛇天狗モ通迷セリ



◀天狗に鬼が追われている絵が描かれている
大きな配置薬の預け袋(縦30.5cm・横22.5cm)

